

日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年 9月 1日

氏名	倉持 菜々美
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2015年8月17日(月)～22日(土)
大学名 学年	千葉大学 5年
<p style="text-align: center;">夏季集中医学英語研修プログラムで身についたこと</p> <p>この合宿では、まず徹底的に訓練し身についたのが問診の取り方、Case Presentationの仕方です。これは本当に大きな収穫であり、参加して良かった、と心から感じています。</p> <p>まず始めに、Medical Englishの授業で、問診、Case presentationの型、というものを教わり、暗記するように言われました。こうしたフォーマットはアメリカの医者、医学生の間では常識であるそうですが、日本人は一切教えられないまま臨床留学に来てしまうため、presentationに抜けが多く、カンファレンスなどで米国医師たちにボコボコにされてしまうそうです。私自身今まで英語で問診や presentation する機会は全くなく、そのようなフォーマットももちろん知らなかったのも、まさに目から鱗でした。次に、ハワイ大学医学部で行われる、Clinic Practiceの授業で、覚えた型を実践形式で使う練習をしました。ハワイ大学の医学生たちを模擬患者とし問診を取り、先生方の前でプレゼンする、というのをひたすら繰り返すのです。この実践形式のワークショップは、英語の練習になるばかりでなく、フォーマットをより定着させ、実際に使えるのだという自信につながりました。なかなか日本でこのような練習ができる機会は少ないですが、今回学んだことを忘れずにいよう、と決めました。</p> <p>また、今回の合宿で巡り合えた仲間達も貴重な収穫の一つです。他大学の医学部生と交流のあまりなかった私にとって、大変良い刺激になりました。将来海外で臨床実習をしたい、という学生が多く、英語、医学のレベルともに高い水準であり、もっと勉強しなければ、といい意味で焦りを感じ、切磋琢磨しあうことが出来ました。</p> <p>最後に、私にこのような素晴らしい機会を与えてくださった日米医学医療交流財団の方々、日本からはるばる授業をしに来てくださった神戸大、東海大の先生方、ハワイで実際に医療に携わり、アメリカで医師をする上でのアドバイスを下さった先生方、ハワイでの寮生活をサポートして下さった Hawaii Tokai International College の事務の皆様には感謝を述べたいと思います。この貴重な体験を生かし、世界に羽ばたける医師をめざして努力したいと思います。</p>	